

就任の挨拶



日立市立会瀬小学校
校長 矢板 久

この度の人事異動により、日立市立水木小学校から赴任して参りました。
赴任しての一ヶ月の間に、地域・家庭・学校の密接なつながりを感じることができ、ありがたく感じています。子どもの健全な成長には、地域・家庭・学校の三者が連携が大切です。会瀬学区の三者の連携を今後も大切に、「笑顔いっぱい 夢いっぱい 会瀬っ子」の育成に取り組んで参りたいと考えています。
地域の皆様には、これからもたくさんお世話になります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



日立市立会瀬幼稚園
園長 北見 倫子

この度の人事異動により日立市立塙山幼稚園から赴任してまいりました。会瀬幼稚園は年少・年長の混合保育を行っている幼稚園です。混合保育ならではの特色を生かしお互いが育ちあえるよう、情緒が安定し自信を持って健やかな成長ができるよう保育をしていきたいと思っています。
子どもたちも会瀬学区の皆様と様々な行事を通して触れ合い学んでいくことと思います。ご指導・ご支援をよろしくお願い致します。



日立市立会瀬小学校
教頭 大芝 由美子

この度の人事異動により、ひたちなか市堀口小学校から赴任して参りました。校舎から見える太平洋、グラウンドから見える山々、加えて子どもたちの元気なあいさつ等に気持ちよく勤務させていただいております。
また会瀬学区は、地域との結びつきが大変強く、様々な活動が行われていると聞いております。
今まで同様、小学校が地域や保護者の方々と一体となった活動ができるよう、心がけて参りたいと思います。
ご指導・ご協力のほど、よろしくお願い致します。



子ども会育成連合会
会長 通澤 健一

日頃より地域の皆様には、子ども会活動にご理解とご支援を戴いていること心より感謝申し上げます。
この度子ども会育成連合会の会長を務めさせて頂くことになりました。子ども達と共にこれから多くの思い出作りに携われること大変光栄に思います。
学校と地域の結び付きが深い会瀬の皆様方のご支援を受けながら、子ども達の育成に少しでも役に立てるよう尽力していきたいと存じますので、今後ともご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。



一丁目地区長
小室 裕二

この度会瀬一丁目地区長を務めさせていただくことになりました小室です。
東日本大震災後一丁目には避難道路の整備・防潮堤の設置など大きな問題が山積みされています。その中、年々高齢化が進み「安心・安全の町づくり」は、何より力強く、大切な事だと思います。
微力ですが、少しでも役に立てればと思います。
皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。



東成沢地区長
染谷 武雄

この度栗原文雄さんの後引き継ぐ事になりました染谷です。
急な出来事でびっくりしておりますが、地域の皆様方の安心、安全な生活が送れますよう一生懸命、お手伝いさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。



会瀬三・四丁目・中成沢地区長 鎌田 勉

地域の一員として、皆様のご指導を受けながら地域の活動を行ってきましたが、この度会瀬三・四丁目・中成沢地区長の地区長を務めることになりました。
当地区は、人材豊富な地域であります。世帯・人口構成が大きく異なる地区が共存し、その特殊性から、地域活動にはいろいろな難しさがあります。これについては、各種団体・組織等関係者とも連携をします。また、日頃の活動結果を三省し、地域に密着した活動の前進に繋げて行きたいと思っています。
今後とも、いろいろな問題が生じると思いますが皆様のご協力をよろしくお願い致します。



交通安全対策
部長 小松 敬昌

この度会瀬学区コミュニティの交通安全対策部長を務めさせていただくことになりました。
将来を担う子供たちや高齢者の安全確保は最優先事項です。これからも学校、各種団体と連携し、会長初め役員の方々、そして皆様方のご指導、ご協力をいただきながら、精一杯努める所存ですのでよろしくお願い致します。



事務局長
下村 明雄

この度会瀬学区コミュニティ推進会の事務局長を務めさせて頂くことになりました。
この2年間事務局の一員として微力ながら活動してまいりましたが、地域では年々町内会が少なくなる等で、コミュニティ推進会の役割がますます重要となっております。
そんな中で事務局は各地区、各部門等の活動を円滑に進むよう裏から支える役割と認識し、活動してまいりますので皆様のご指導、ご協力お願いします。

学区社会福祉協議会 ・ 役員

・委員長・サロン代表者紹介

副会長

鎌田 勉

渡邊 さち子

教育福祉相談委員長

皆川 悠美子

ひだまりサロン代表

神永 つる代

サロン虹代表

渡部 和子

【敬称略】

【ふるさと会瀬】から 会瀬旧述 その一

新修日立市史に次の記述がある。「文政年間（1818-1830）に常陸国多賀郡成沢村神官瀬谷義文が著した「会瀬旧述」に、会瀬浦の地名の由来が述べられている。往古、牽牛織女の二星が7月7日の夜、五色の雲に乗じてこの磯に降臨したので、七夕磯と称した、というのである。この七夕磯は鼓（つづみ）磯、須弥山（しゆみせん）磯、蓬萊（ほうらい）磯などの別名がある。また、七夕磯のまわりの鵜島そばの磯は三味線、笛、鼓の音をなす、というので浦人は神磯と称している、と言われている。この中に蓬萊磯の名があるのは、この海浜が神仙郷に擬せられていたことを思わせ、常世の国の思想が流れていたことを示している。」

200年前に著わされた「会瀬旧述」には会瀬のどんなことが紹介されているのか興味がある。神官瀬谷義文の子孫である歴史学者瀬谷義彦氏は、「会瀬旧述」を所有していたが知人に貸したあと所在が不明であると書いている。平成27年3月に瀬谷先生の膨大な史料を研究整理していた先生の教え子が「会瀬旧述」を見つけ出した。

文政年間の旧述となると100年以上前の元禄から享保期の伝聞であろう。徳川光圀が水戸藩主になったのは1661年で光圀の諫言で相賀村から会瀬村に改称したのが1698年である。「会瀬旧述」はそのころの会瀬で語り継がれた伝説かもしれない。光圀の寺院改革や神社改革による神道確立をはかったことなどから光圀色の濃い「会瀬旧述」ともいえる。



会瀬の地名由来として七夕磯が挙げられている。会瀬浦に降臨した牽牛織女の二星とあるから、二星を二神とみなしている。磯の先端にある二つの大きな石に降り立ったのでこの石を夫婦石とか殿石そして神磯とまで村人は称していたという。この磯に打ち寄せる波は夫婦石から左右に分かれ女波男波となり渚まで続いている。この地は陰陽和合の地で二星が磯で出会った所から会瀬の浦と名付けたと書かれている。